

東京外語会主催「文化講演会」のご案内

「イスラーム世界と日本を結んだ男 —アブデュルレシト・イブラヒムと山岡光太郎」

講師：小松久男氏 東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授<中央アジア近現代史・地域研究>

日時：2014年3月8日(土)午後2時～4時(講演後4時から懇親会)

会場：東京外国語大学 本郷サテライト4階

講師紹介：小松久男（こまつひさお） 1974年東京教育大学文学部卒業、1980年東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退。1980 - 1992年東海大学文学部専任講師・助教授、1992年 - 1995年東京外国語大学外国語学部助教授（トルコ語専攻創設期）、1995年 - 2012年東京大学大学院人文社会系研究科助教授・教授、2012年から東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授（中央アジア専攻）。専門は中央アジア近現代史・地域研究。主な著作・翻訳に、『革命の中央アジア—あるジャディードの肖像』（東京大学出版会、1996年）、『中央ユーラシア史』（編著、山川出版社、2000年）、『岩波イスラーム辞典』（共編、岩波書店、2002年）、『中央ユーラシアを知る事典』（共編、平凡社 2005年）、『イブラヒム、日本への旅—ロシア・オスマン帝国・日本』（刀水書房、2008年）、V.V.バルトリド『トルキスタン文化史1・2』（平凡社、2011年）、アブデュルレシト・イブラヒム『ジャポンヤーイブラヒムの明治日本探訪記』（共訳、岩波書店、2013年）など。



講師メッセージ

明治42年(1909年)2月、ロシアからタタール人ジャーナリストのイブラヒム(1857-1944)が来日しました。彼はイスラーム教徒に対する帝政ロシアの抑圧に反発し、日露戦争に勝った日本との連携によってイスラーム世界の解放を構想する熱烈な汎イスラーム主義者です。彼は、伊藤博文や大隈重信らの政治家やアジア主義者にイスラーム世界の地政学的な重要性を説いたことで知られています。この「鞭撻の志士」の考えに触発されて、彼とともに日本人として初めてのメッカ巡礼を行ったのが、東京外国語学校ロシア科出身の山岡光太郎(1880-1959)でした。二人はロシア語で会話を交わしたはずですが、今回はこの二人の活動を通して、イスラーム世界と日本との関係を考えてみたいと思います。